

令和7年  
2025年

4月15日  
火曜日

第11692号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



改正基本法、基本計画が閣議決定……P2~3

- ▶ 24 / 25年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA報告……………P2
- ▶ 酪肉近や家畜改良増殖目標などを公表—農水省……………P2
- ▶ 改正基本法、基本計画が閣議決定「既存予算とは別枠で、思い切った規模の予算を」—森山本部長……………P2~3
- ▶ 売上高は順調に増収—エスフーズの25年2月期決算……………P3
- ▶ 「和食とオーストラリアの赤身肉の融合」をテーマに、ラム肉を使った調理デモを実施—MLA……………P4
- ▶ 新しい養豚の基本方針などに関して、JPPAがコメント発表……………P5
- ▶ 2月のカレーライス物価、1食あたり初の400円突破—帝国データバンク……………P5
- ▶ 弁当のはたなか(福岡)、「九州肉祭り弁当」を販売……………P6
- ▶ 6月に第9回国産生ハムフェスティバル開催、20工房の国産生ハムが集結……………P6
- ▶ 中国政府、農畜産物を含むすべての米国産輸入品に125%の追加関税……………P6~7
- ▶ フジの決算は6期連続の増収に、畜産は畜産0.2%減……………P7
- ▶ 【輸入副生物現物相場】……………P8
- ▶ びっくりドンキー、メニューの1 / 3品目を値上げ…P8
- ▶ [資料] 令和7年度春の連休中の各市場業務日程……………P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 14日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 14日…P11

## 注目のヘッドライン

24 / 25年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA報告

…詳細はP2

「和食とオーストラリアの赤身肉の融合」をテーマに、ラム肉を使った調理デモを実施—MLA

…詳細はP4



Nipponham Group  
たんぱく質を、もっと自由に。

食肉施設の設計・施工・コンサルタント

— 食肉業界をリードする —



〒110-0016 東京都台東区台東4-20-5  
☎03-3834-1561(代) <https://hanaki-eng.co.jp/>

## 24 / 25 年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA 報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告(現地時間10日)によると、2024/25年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が28億2796万t(前年度比0.3%増)、消費量が28億6173万t、(1.5%増)、期末在庫量が7億5988万t(4.3%減)を見込んでいる。

品目別にみると、小麦の生産量は7億9685万t(0.7%増)、消費量は8億520万t(0.9%増)、期末在庫量は2億6070万t(3.1%減)を見込んでいる。価格は3月に入り、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念などを受けて5ドル/bu台前半まで値を下げたものの、米國小麦産地の乾燥予報や25/26年度ロシア産小麦の収穫見通しが下方修正されたことなどを受けて5ドル/bu台後半まで値を上げた。その後、ロシア・ウクライナの停戦により両国からの輸出が安定するという期待や米国およびロシアの小麦産地の降雨予報などを受けて値を下げ、3月末現在、5ドル/bu台半ばで推移。とうもろこしの生産量は12億1510万t(1.2%減)、消費量は12億4178万t(1.8%増)、期末在庫量は2億8765万t(8.5%減)を見込んでいる。価格は3月に入り、米国の対メキシコ関税に対す

るメキシコの報復関税の可能性による米国産の需要低下懸念などを受けて4ドル/bu台前半近くまで値を下げた。その後、米国の対メキシコ関税について、米国・メキシコ・カナダ協定に準拠した製品が対象外となり、米国産の需要低下懸念が和らいだことや、堅調な輸出成約高などを受けて4ドル/bu台後半まで値を上げたものの、作付意向面積の増加予想と低調な輸出成約高等を受けて値を下げ、3月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

大豆の生産量は、4億2058万t(6.1%増)、消費量は4億1067万t(7.1%増)、期末在庫量は1億2247万t(6.2%増)を見込んでいる。価格は3月に入り、米国の対中関税の導入に対する中国の大豆への報復関税の実施による米国産の需要低下懸念などを受けて9ドル/bu台後半まで値を下げたものの、2月下旬からの下げの反動等を受け、一時的に10ドル/bu台前半まで値を上げた。その後、ブラジルの収穫進捗しんちよくなどを受けて9ドル/bu台後半まで値を下げたものの、バイオ燃料の混合率引き上げ報道に伴う大豆油急騰等を受けて値を上げ、3月末現在、10ドル/bu台前半で推移。

## 酪肉近や家畜改良増殖目標などを公表—農水省

農水省は11日、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」「家畜改良増殖目標」「鶏の改良増殖目標」「家畜排せつ物の利用の促進を図る

ための基本方針」「養豚農業の振興に関する基本方針」について公表した。なお、官報については後日掲載を予定。

## 改正基本法、基本計画が閣議決定 「既存予算とは別枠で、思い切った規模の予算を」—森山本部長

政府はこのほど、食料・農業・農村基本計画を閣議決定した。これについて、江藤拓農水大臣は11日の閣議後会見で「改正基本法に基づく、初めての基本計画となるが、初動5年間で、農業の構造転換を集中的に推進するにふさわしいものとするため、食料・農業・農村政策審議会での議論を基に、国会で

の審議、決議なども踏まえながら、丁寧に調整を進めてきたところだ。この基本計画の実行のためには、食料システムの関係者・関係団体間の相互理解と連携、協働が重要である」とし、国民に対し理解を求めた。

また、同日には自民党食料安全強化本部の森山裕

本部長らは、「新たな食料・農業・農村基本計画の実効性確保のための農業構造転換集中対策の推進などに関する決議」を手交した。

決議文では、国内の食料供給における畜産対策について、持続的な畜産経営の実現を目指す上で、牛乳・乳製品および牛肉等について、海外需要の開拓を含めた需要拡大などを通じ、需給ギャップの解消を図るとともに、スマート農業技術の活用などによる生産性の向上に取り組むこと、また、国際情勢に左右されにくい畜産経営の確立に向け、耕畜連携の推進

等を通じ、粗飼料を中心とした国産飼料の生産・利用拡大などを図ることが示されている。

森山本部長は「このほど、新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定された。これを受け、実効性を確保するために党としての決議を取りまとめ、総理大臣、農水大臣に申し入れを行った。初動の5年間で農業の構造転換を集中的に推し進めることが大事であると認識している。既存予算とは別枠で、思い切った規模の予算を確保すべきであるということを明記している」と説明した。

## 売上高は順調に増収－エスフーズの25年2月期決算

エスフーズは14日、2025年2月期決算を発表した。それによると、売上高は4445億4600万円（前期比4・6%増）、営業利益51億4300万円（59・4%減）、経常利益63億8800万円（55・6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益26億6700万円（70・6%減）となった。

セグメント別の概況は次のとおり。食肉等の製造・卸売事業においては、将来を見据えた海外事業への先行投資と国内事業の営業力強化、事業運営の効率化に努めた。海外において、米国では、高級牛肉の調達力向上を目指して対応してきたオーロラビーフの新工場建設を進めており、本年度から稼働を開始する予定である。一方、米国における生体牛高の影響とニュージーランドにおける中国向けの販売不振により、収益面では厳しい状況となった。国内において、首都圏を抱える東日本での営業力強化を継続している。また北海道では、一昨年に実施した国産豚肉の増頭プロジェクトの完了後、供給能力の向上を図り、国内販売の強化だけでなく輸出促進にも努めている。それ以外にも、飼料・物流などのコスト高騰が継続する環境下で、より効率的な事業運営を目指し、在庫の適正化や経費管理の徹底を図るだけでなく、老朽化施設・設備の整理や生産拠点の集約を進めている。広島では、既存の営業所の統合・拡充を進めるべく、新たな営業所の建設を進めており、来年には稼働を開始する予定である。国産牛肉事業では、和牛の取扱数量の増加と輸出量拡大に努めた。製品事業では、バラエティー豊かなホルモン商材を使った食肉製

品として、新商品の投入や既存商品のリニューアルを実施した。また、取引先と協力して消費者の嗜好に合わせた新製品の投入に積極的に取り組んでいる。この結果、売上高は4115億9800万円（4・8%増）、セグメント利益は43億5300万円（62・5%減）となった。

食肉等の小売事業においては、新規ディベロッパーとの取り組みを含めた出店や改装店の立ち上げのほか、新業態店舗モデルの開発および推進を図っている。また、既存店の活性化を図るためのイベント型提案販売やレイアウトの再構築などを実施してきた。この部門の売上高は240億4900万円（0・1%増）、セグメント利益は13億1400万円（19・0%減）となった。

食肉等の外食事業においては、行動制限の緩和により回復基調がみられ、インバウンドや大型のパーティー需要も寄与し、原材料費やエネルギー価格の上昇を受けながら、メニュー改定を実施するなどの施策を行ってきた。今後も競争力向上のための施策を実施していく。食肉等の外食事業売上高は81億2600万円（7・9%増）、セグメント利益は4億8600万円（10・7%減）となった。その他売上高は7億7100万円（0・1%増）、セグメント利益は1億2300万円（131・7%増）となった。

次期の見通しについては、売上高4750億円（6・9%増）、営業利益75億円（45・8%増）、経常利益85億円（33・0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益45億円（68・7%増）を見込んでいる。

## 「和食とオーストラリアの赤身肉の融合」をテーマに ラム肉を使った調理デモを実施— MLA

オーストラリア フード&ワイン・コラボレーション・グループ(デーリー・オーストラリア、ホーティカルチャー・イノベーション・オーストラリア、ミート&ライブストック・オーストラリア、シーフード・インダストリー・オーストラリア、ワインオーストラリア)はこのほど、豪州産の食材およびワインのセミナーを東京都内で開催した。同セミナーは、肉やシーフード、ワインなどの品目ごとに実施され、「和食とオーストラリアの赤身肉の融合」をテーマにしたセミナーでは、プルマン東京田町エグゼクティブシェフの福田浩二氏(中央写真左)による調理のデモンストレーションが行われた。

冒頭、ミート・アンド・ライブストック・オーストラリア(MLA)の北野秀一トレードシニアマネジャーが豪州産の牛肉および羊肉の優位性などについて説明した。

MLAは、豪州の肉牛と羊の生産者の出資によって設立された生産者団体で、需要拡大を目的とし、ワークショップやセミナー、広報活動などを展開している。豪州では現在、約3千万頭の肉牛が生産され、約60%がグラスフェッド、約40%がグレインフェッドとなっており、①安定性②安心であること③持続可能であること④多様性の四つの優位性がある。また、羊肉の生産頭数は約6千万頭で、輸出も伸長している。

北野氏は「生産された牛肉の70%、羊肉の60%が輸出向けとなっており、畜産の生産が国の大きな産業である。また、日本への牛肉輸出においては、60年の貿易実績を持つ」と説明した上で、トレーサビリティシステムや、アニマルウエルフェア、餌や品種の改良などのほか、メタンガスの低減等の環境に対する取り組みなどを紹介した。

続いて、福田シェフによる調理デモンストレーションが行われ、ラム肉のミンチをスライス肉で包んだギョーザをイメージした料理の調理工程を実演。ソースにはしそをベースにしたタバスコのピリ辛ソースを使用した。

“和”の要素と日本人になじみのある「ギョーザ」を今回のレシピに採用したことについて、MLAの三橋



一法シニアマネジャー(中央写真右)は「ビジネスを展開する上で、新しい食材を探している人にとってラム肉は知っておいたほうが良いアイテムだと思い、今回のデモンストレーションの食材に選ばせていただいた。より身近に、オンメニューしやすいアイデアを提案したく、今回はラムのミンチを使用した料理を披露した。日本人1人当たりの羊肉の年間消費量は300gとまだまだ少ない。一方で、一般の消費者の検索数が非常に伸びた結果、去年発表されたクックパッド食トレンド予測では、ラム肉が選ばれた。今後、もっと身近な食材になってほしいと思っている」と話した。

## 新しい養豚の基本方針などに関して、JPPA がコメント発表

一般社団法人日本養豚協会 (JPPA、香川雅彦会長) は11日、閣議決定された新しい「食料・農業・農村基本計画」について、コメントを発表した。

今回、昨年制定された新たな食料・農業・農村基本法に基づき、養豚農業振興に関する基本方針、家畜改良増殖目標などが見直された。これに対してJPPAは、新基本法が示した食料の安定供給の確保、農業の持続的な発展などを受け、今後の養豚農業の進むべき方向について、関係者の意見を踏まえ、重要な事項が幅広くまとめられたと評価している。2015年の公表以来、養豚基本方針は初めて、家

畜改良増殖目標は5年ぶりの見直しだった。

一方、激動の時代にあって、生産者は生産性向上および高付加価値化による収益改善に努めているが、飼料や資材費などの生産コストは高止まりの様相を呈し、発生が続く豚熱のほか、ASF、口蹄疫の侵入リスクも高い状況だ。養豚農業の安定的な発展と、国民の食料安全保障の強化、農業収益力の向上のためには、基本方針などの実効性を確保していくことが必要。JPPAではこれらの実現に向けて活動すると共に、「農業構造転換集中対策期間」における事業および予算規模の拡大を政府に呼びかけている。

## 2月のカレーライス物価、1食あたり初の400円突破—帝国データバンク

(株)帝国データバンクはこのほど、独自に試算した、食卓への影響度を示す「カレーライス物価指数」を発表。カレーライスを家庭で調理する際に必要な原材料や光熱費などの価格(全国平均)を基に算出し、食卓に与える物価高の影響を可視化した「カレーライス物価」は、今年2月時点で1食あたり407円となった。前月(396円)から11円高、前年同月(319円)からは88円(27・6%)高と3割に迫る大幅な上昇となったほか、比較可能な2015年1月以降で初めて400円を超え、11カ月連続で最高値を更新。米価格の大幅な高騰で「ごはん(ライス)」のコスト増が顕著なほか、じゃがいもやにんじん、輸入牛肉が高値で推移したことを背景に、カレーライス物価は引き続き上昇基調で推移した。

カレーライス物価を構成する費用の内訳をみると、最も高いのが全体の約5割を占める「カレー具材(肉・野菜)」で209円(前年同月198円、11円高)だった。前月から変動はなかったものの、猛暑による生育不良で野菜価格が高騰した昨年8月以来となる高値となった。「ごはん(ライス)」価格は169円。足元で米店頭価格が高止まりしていることを背景に、前年同月(92円)からは77円高と大幅に上昇し、過去最高値を更新。「カレールー」(25円)は価格の変動がなかった。

カレーライス物価を基に、20年平均を基準(100)とした独自算出の「カレーライス物価指数」をみると、25年2月の指数は148・4。カレーライス物価は5年間で約5割上昇したほか、10年前(15年2月=246円)からは65・4%増と6割を超える値上げとなり、記録的な物価高が反映された。同指数の前年同月比では27・4%上昇し、21カ月連続のプラスとなったほか、15年以降で最大を記録した。

また、全国の物価の先行指標となる東京都区部の物価動向を基に予想した3月のカレーライス物価は、1食420円前後まで上昇する見通し。農水省の調査による2月の価格見通しでは、カレーライス物価を構成する野菜類では、いずれも「平年を上回る」見込み。輸入牛肉の価格も横ばいから上昇傾向での推移が続き、「カレー具材」は昨年7月以来8カ月ぶりに210円台に到達して過去最高値を更新する可能性がある。

輸入牛肉は、米国産などでトランプ関税による価格高騰のリスクを抱えており、カレーライス物価をさらに押し上げる可能性も出ている。米価格は、政府による備蓄米の放出で値下がりへの期待感はあるものの、4月時点でも24年産(新米)を中心に店頭価格ベースで値上がりが続いており、1食あたり180円台と前年比約2倍の高値推移が予想される。

## 弁当のはたなか(福岡)、「九州肉祭り弁当」を販売

オフィス街などで日替わり弁当を販売する、はたなか(福岡市、畑中敬史社長)は24日、九州育ちの肉を一つの弁当に詰め込んだ「九州肉祭り弁当」を販売する。同社はメイン料理からソースに至るまで「てづくり」にこだわった日替わり弁当を製造し、福岡市内とその近郊エリアに配送している。九州産の「お肉」をテーマにメニュー化した取り組みは初めてで、地元企業ならではの「九州愛あふれる」(同社)こだわり弁当に仕上げた。

同弁当の副菜(肉)には和牛オリンピック(全国和牛能力共進会)で日本一に輝いた長崎県産「長崎和牛、出島ばらいろ」のミンチを使用したハンバーグや鹿児島県産「桜島どり」(ムネ肉)のチキン南蛮、もちりとした甘みに定評のある「とびうめ豚」の焼き肉炒めなど九州産の人気ブランドを集めた、まさに「肉尽くし」の特別メニュー。価格は税込み500円で、同料金には別容器で「麦ごはん」も含まれる。なお配送可能エリアなど詳細の問い合わせについては同社＝電話092(571)8825まで。



## 6月に第9回国産生ハムフェスティバル開催、20工場の国産生ハムが集結

国産生ハム生産者サミット&フェスティバル実行委員会は6月15日、岩手県紫波郡のオガールインで「第9回国産生ハムフェスティバル」を開催する。

このイベントは同委員会が主催し、一般社団法人国産生ハム協会および国産生ハムフェスティバル紫波町実行委員会が共催、紫波町と(株)オガールが後援を務めるもので、生産者自身が切りたての生ハムを来場者に提供する一大イベント。Jクラフト生ハム(国産長期熟成生ハム)を多くの人に広める普及活動の一環として2017年から実施されており、民間主導型公民連携・地方創生の成功モデルともいわれている。今回は

初参加の3工場を含み、史上最多の20工場がエントリー。国産豚と塩だけで1年以上熟成させた20種類のJクラフト生ハムを食べ比べることができる。開催概要は次のとおり。

開催日時＝6月15日11～15時30分▷会場＝オガールイン ラウンジ(岩手県紫波郡紫波町2-3-12)▷各種料金＝税込み5500円(限定前売券、生ハム25種類)、4400円(前売券、20種類)、1100～5500円(各種当日券)、入場は無料▷問い合わせ先＝国産生ハム協会＝電話03(6810)8455、ホームページ＝<https://momo29.stores.jp/>

## 中国政府、農畜産物を含むすべての米国産輸入品に125%の追加関税

中国政府は11日、米国による追加関税措置への報復として、畜産物や飼料を含むすべての米国産輸入

品に対して4月10日から課していた84%の追加関税を、12日から125%に引き上げると発表した。今回の

追加関税は、品目ごとの最恵国税率や2025年3月に米国産の畜産物・飼料などに課された追加関税10～15%に上乘せするものである。

農畜産物については、18年の第1次トランプ政権による中国に対する関税措置に対抗するものとして、中国政府が、同年4月に米国産の豚肉およびくず肉に対して25%、同年7月に米国産の畜産物、乳製品、飼料などに対して25%をそれぞれ課している。

18年の追加関税以前の17年と直近24年の輸入量を比較すると、米国からの輸入量が減少している品目(豚肉、くず肉、豚の内臓など、大豆、粗飼料、アルファルファなど、DDGS〈トウモロコシ蒸留かすなど〉)がある一方、中国国内の需要増を受け、追加関税が課された後も多くの品目で輸入量が増加している(表)。しかし、特に輸入量が多く、中国にとって重要な品目であるとうもろこしと大豆については、米国産の割合が減少し、ブラジル産の割合が大幅に増加していることに留意する必要がある。今回の追加関税により、中国がこれら品目の輸入先を米国から他の地域に変

更する動きを強めることなどが予想されるため、国際相場などにも影響するとみられる今後の動向が注視されている。

なお、今回の追加関税に先立ち米国政府は4月9日、中国産の輸入品に対し、125%の追加関税(同年2月および3月の追加関税と合わせて145%)を課している。(農畜産業振興機構)

米国からの主な農畜産物の輸入量(2017年、2024年)

品目	HSコード	2017年			2024年				
		全体	輸入先上位3カ国(及び米国)	輸入量(万トン)	全体に占める割合(%)	全体	輸入先上位3カ国(及び米国)	輸入量(万トン)	全体に占める割合(%)
牛肉(冷凍)	0202	68.9	ブラジル	19.8	28.7	280.3	ブラジル	134.0	47.8
			ウルグアイ	19.6	28.4		アルゼンチン	59.2	21.1
			豪州	11.0	16.0		ウルグアイ	24.3	8.7
			米国(9位)	0.2	0.3		米国(6位)	11.8	4.2
豚肉	0203	121.7	スペイン	23.8	19.5	105.1	スペイン	29.0	27.6
			ドイツ	21.2	17.4		ブラジル	23.7	22.6
			カナダ	16.7	13.7		カナダ	7.6	7.2
			米国(4位)	16.6	13.6		米国(5位)	7.0	6.7
くず肉	0206	126.1	米国(1位)	41.6	33.0	119.1	米国(1位)	31.8	26.7
			ドイツ	14.7	11.7		スペイン	23.2	19.5
			デンマーク	14.4	11.4		カナダ	12.2	10.3
			米国(1位)	29.0	54.8		米国(1位)	29.6	44.7
ホエイ	0404	53.0	フランス	6.2	11.6	66.1	オランダ	5.9	9.0
			オランダ	4.1	7.7		ペラルーシ	5.7	8.7
			豪州	170.7	69.1		フランス	229.1	34.2
			米国(2位)	51.6	20.9		豪州	198.8	29.7
トウモロコシ	1005	282.5	カザフスタン	22.3	9.0	1,377.5	米国(3位)	146.7	21.9
			ウクライナ	182.2	64.5		ブラジル	646.6	46.9
			ラオス	15.1	5.3		ウクライナ	465.3	33.8
			米国(1位)	475.8	94.1		米国(3位)	207.3	15.0
ソルガム	1007	505.7	米国(1位)	475.8	94.1	865.7	米国(1位)	568.3	65.6
			豪州	29.6	5.9		豪州	195.1	22.5
			ミャンマー	0.3	0.1		アルゼンチン	102.0	11.8
			ブラジル	5,092.9	53.3		ブラジル	7,465.0	71.1
大豆	1201	9,553.7	米国(2位)	3,285.4	34.4	10,503.7	米国(2位)	2,213.5	21.1
			アルゼンチン	658.3	6.9		アルゼンチン	410.2	3.9
			米国(1位)	130.7	70.4		米国(1位)	93.1	69.2
			豪州	30.8	16.6		豪州	22.6	16.8
粗飼料	1214	185.6	モンゴル	11.1	6.0	134.5	スペイン	10.5	7.8
			米国(1位)	43.7	75.3		ロシア	43.3	60.4
			タイ	11.9	20.4		米国(2位)	23.3	32.5
			カンボジア	1.4	2.5		エジプト	3.8	5.2

資料:「Global Trade Atlas」

注1:対象品目をHSコード4桁ごとに集計したもので、ただし、小麦は飼料として使われることのある100199のみを集計。

注2:2017年比で24年に、■ 輸入量・割合ともに増加、■ 輸入量・割合ともに減少、■ 輸入量は増加・割合は減少。

## フジの決算は6期連続の増収に、畜産は0・2%減

フジの2025年2月期連結決算は、営業収益8089億2800万円(前期比1・0%増)、営業利益129億5300万円(14・3%減)、経常利益143億1500万円(17・6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益38億1800億円(48・7%減)となった。

営業収益は6期連続の増収となり、過去最高を更新した。既存店の改装・建て替えなど店舗への積極的な投資を行ったほか、生活防衛意識の高まりに対応し、EDLP商品の品ぞろえを強化した。一方、積極投資で利益減につながった。

既存店売上高前期比は1・8%増。部門別では、食料品が2・2%増、うち農産が7・2%増、水産0・9%

増、畜産0・2%減。衣料品5・6%減、住居関連品1・2%増。客数0・6%減、客単価2・4%増、買上点数0・9%減、1品単価3・2%増。期末店舗数は487店舗。

新年度では、引き続き価格対応を強化し、PB「トップバリュ」を拡販するほか、成功事例の既存店への導入、省人化・省力化・人時生産性向上に努めるとしている。

次期の見通しは、営業収益8150億円(0・8%増)、営業利益155億円(19・7%増)、経常利益168億円(17・4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益55億円(44・0%増)を見込む。

## 【輸入副生物現物相場】GWに向け、強もちあいだが関税措置巡り不透明な状況続く

上半期の大きな需要期であるGWが迫ってきており、荷動きも先月から比べると徐々に活発化してきた。ただ、相場は米国産の焼き材中心に強もちあいの展開だが、引き合いが強いというよりは市中の玉が少ないことから、需給が締まっている面が強い。

米国のトランプ政権の関税措置を巡って、今週半ばから農産物や自動車の非関税障壁などについて日米の協議が本格化する見通しで、結果次第では為替も含めて、今後の相場動向にも大きな影響を与える可能性もあり、大手卸・商社も模様眺めの姿勢でいることも相場が動かない一因となっているようだ。

ただ、「米国産の頭数が少ないことに変わりはなく、協議がどういう方向に進んでも相場が下がる線は薄いのではないか」(大手卸)とみる向きも多く、為替レートが円高傾向にシフトしつつあるとはいえ、GW明けも需給は大きく緩むことはなく、タンやアウトサイドスカートなど主要焼き材については引き続き高値圏での推移が続くとみられる。

一方、白物の動きは「オフシーズン」としては堅調に推移。鍋物需要の時期は過ぎたが、店頭での値頃感から、量販店の味付けホルモンなどへの引き合いは一定数続いているほか、外食店でも各種原料が高騰している中、従来、国産物を使っ

ていたところが輸入物にシフトするといったケースも出てきているようだ。実際に、国産牛内臓の上物である和牛の白物の動きが非常に悪くなっていることをみても、乳牛、輸入に需要が流れるケースが増加している。そうしたことを勘案すると、夏場まで底堅い動きが続きそうだ。

【輸入副生物現物相場】

円/キロ、税抜き

	商品名	原産地	規格	円/キロ、税抜き	
				価格	気配
フ ロ ー ズ ン	牛タン	米国		2500~2600	↑
		豪州	グラス	2100~2200	→
		欧州	グラス	1950~2050	→
	ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイス プライム	2000~2100	↑
		メキシコ		-	-
	アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイス プライム	3100~3300	↑
		メキシコ		-	-
	シンスカート、シックスカート	豪州	バルク	1200~	↑
	シンスカート(皮なし)	豪州		1500~	→
	レバー	豪州		320~	-
		米国		350~	→
	トライブ	-	1.5UP	-	→
		豪州	700gUP 500gUP	-	→
	スモール	米国		500	→
	ラージ	米国		650~700	↑
		豪州		680~720	→
	アキレス	米国		1200	→
	テール	豪州		1000~1400	→
メンブレン	豪州		600~	→	
チ ル ド	牛タン	米国	グレイン	2750~2900	↑
		豪州		2500~2700	↑
	牛タン(ムキタン)	米国		4500~4800	↑
		豪州		-	→
	ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイス プライム	2100~2300	↑
				2400~2700	↑
	アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイス プライム	3100~3500	↑
			3500~	-	
	メキシコ		-	→	

## びっくりドンキー、メニューの1 / 3品目を値上げ

(株)アレフが展開するハンバーグ店「びっくりドンキー」は9日から、全345店舗においてグランドメニューおよび一部商品(全体の3分の1品目)を値上げした。食材調達価格の高騰、エネルギーコストや人

件費の上昇などを受けてのもの。

びっくりドンキーは出店する地域や店舗により取り扱う商品や価格が一部異なる。「レギュラーバーグ デイッシュュS」は30円値上げした。

[資料] 令和7年度春の連休中の各市場業務日程

公益社団法人 日本食肉市場卸売協会

市場名	と畜業務														市場業務														備考
	4月					5月									4月					5月									
	26土	27日	28月	29火	30水	1木	2金	3土	4日	5月	6火	7水	26土	27日	28月	29火	30水	1木	2金	3土	4日	5月	6火	7水					
仙台	休	休	○	休	○	○	○	休	休	休	○	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	○	○						
茨城	休	休	○	○	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	○	○	○	○	休	休	休	休	休						
栃木	休	休	○	○	○	○	休	休	休	○	○	△	休	○	○	○	○	△	休	△	○	○							
群馬	休	休	○	○	○	○	休	休	休	○	○	休	休	○	○	○	○	休	休	休	休	休	○						
さいたま	休	休	○	休	○	○	休	休	休	○	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	○						
川口	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	△	△	休	休	休	休	○						
東京	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	○	休	休	休	休	○	5/3豚のみセリ、 5/7牛のみセリ					
横浜	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	休	△						
山梨	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	△	休	休	休	休	休	○						
浜松	休	休	○	休	○	○	休	休	休	○	○	休	休	○	休	△	△	△	休	休	○	休	△	4/28,5/5牛のみセリ					
岐阜	休	休	休	○	○	○	休	休	休	○	○	休	休	休	○	○	○	休	休	休	休	○	○						
飛騨	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	○	休	休	休	休	休	休	休	休	休						
名古屋	休	休	○	休	○	○	休	休	休	○	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	○						
東三河	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	休	○						
四日市	休	休	○	休	○	○	休	休	休	○	○	休	休	△	休	△	○	△	△	休	休	△	△						
京都	○	休	○	休	休	○	休	休	休	休	休	△	休	○	休	休	△	△	休	休	休	休	休	5/1豚のみと畜、牛・豚相対取引のみ、 5/2豚相対取引のみ					
大阪	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	休	△						
神戸	休	休	○	休	休	○	休	休	休	○	○	△	休	○	休	△	△	△	休	休	休	休	○						
姫路	休	休	○	休	休	休	休	休	休	休	○	○	休	△	休	△	△	△	休	休	休	休	△						
加古川	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	△	休	△	△	○	休	休	休	休	△						
西宮	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	△	休	△	△	△	休	休	休	休	△						
岡山	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	○	休	休	休	休	○	5/2豚のみと畜					
坂出	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	△	休	△	△	△	休	休	休	休	△						
高松	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	△	休	△	△	△	休	休	休	休	△						
広島	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	休	○						
福岡	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	休	○	○	休	休	休	休	休	○						
佐世保	休	休	○	○	○	○	休	休	休	休	○	休	休	○	○	○	○	休	休	休	休	○	○						
市場協会													休	休	△	休	△	△	△	休	休	休	休	休	△	事務局業務			

※市場業務:セリあり・・・「○」、セリはないがその他の市場業務あり・・・「△」

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 4月14日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 264頭	高値	4,923	3,189	2,171	-	-
		安値	2,127	2,008	1,954	-	-
		平均	2,918	2,323	2,031	-	-
		頭数	214	46	4	-	-
	雌 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A 64頭	高値	4,104	2,496	2,218	-	-
		安値	2,160	2,229	2,075	-	-
		平均	2,445	2,284	2,152	-	-
		頭数	52	10	2	-	-
去 B -頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 23頭	平均	-	1,771	1,580	1,436	-
		頭数	-	1	18	4	-
	雌 C 1頭	平均	-	-	1,421	-	-
		頭数	-	-	1	-	-
去 B 5頭	平均	-	1,680	1,559	1,513	-	
	頭数	-	2	2	1	-	
去 C -頭	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 412	917 962	- 179.5	(競り)	(相対)	
				-	11	44

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,591	2,237	1,543	1,184	-
	B	-	-	1,372	1,183	-
和 去	A	2,538	2,355	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	907	880
	C	-	-	-	879	862
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	1,750	1,680	1,610	1,439	-
	C	-	1,508	1,399	-	-
交 去	B	1,703	1,634	1,578	1,554	-
	C	-	-	1,514	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	591	918	896	907	832
	安値	551	529	497	389	389
	平均	565	556	539	523	487
	頭数	( 5)	( 365)	( 359)	( 162)	( 71)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	612	591	-
	安値	-	-	591	581	-
	平均	-	-	600	586	-
	頭数	( -)	( -)	( 9)	( 2)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 4月14日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ]は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,480	2,237	-	-	-
(頭数)	( 3)	( 1)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( 1)
和 去 A	2,605	2,276	-	-	-
(頭数)	( 5)	( 4)	( 1)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( 1)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,665	1,577	-	-
C	-	-	-	1,343	-
交雑去 B	-	1,724	1,644	-	-
C	-	-	1,617	1,458	-
豚	757	698	682	620	-

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	4月14日	4月11日	(4月累計)
豚	62,600	63,700	557,200
成牛計	4,680	4,020	40,770
和牛雌	1,330	900	10,500
和牛去勢	1,000	1,000	11,030
乳牛雌	710	860	6,430
乳牛去勢	330	400	3,760
交雑雌	560	370	4,280
交雑去	750	490	4,760

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 4月14日

	1,570円	(前日 1,658円)
東京		
大阪	1,624円	(前日 1,595円)

[豚・全農建値] 4月14日

上	中	取引頭数	市況
569円	548円	1,066頭	弱もちあい

と畜 売買	牛 130頭 牛 50頭	豚 30頭 豚 82頭	牛概況 豚概況	もちあい まぢまち
----------	-----------------	----------------	------------	--------------

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 4月14日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	605 (616)	- (-)	5,392	-	下押し
仙台 [中]	542 (570)	485 (490)	362	120	続落
栃木 [地]	546 (573)	531 (545)	1,651	118	続落
茨城 [地]	575 (585)	557 (562)	1,145	550	続落
群馬 [地]	572 (567)	503 (491)	2,013	271	小幅高
さいたま [中]	563 (559)	551 (552)	227	228	強もちあい
東京 [中]	556 (573)	539 (551)	917	962	続落
横浜 [中]	588 (588)	556 (558)	670	684	もちあい
山梨 [地]	- (-)	- (-)	146	43	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	590 (594)	547 (550)	957	218	もちあい
京都 [中]	628 (601)	620 (585)	99	71	もちあい
大阪 [中]	698 (-)	682 (580)	30	64	まちまち
神戸 [中]	- (594)	- (586)	158	-	上場なし
岡山 [地]	609 (657)	588 (670)	262	297	反落
広島 [中]	580 (599)	561 (571)	172	41	下押し
福岡 [中]	573 (570)	552 (549)	600	105	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。京都の前日は12日。

[日本食肉流通センター] 4月7日~4月13日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,291,962 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,151	1,177	1,242	1,176	50,295
うで	744	812	838	809	109,950
ロース	1,081	1,172	1,189	1,147	97,441
ばら	1,183	1,221	1,292	1,231	110,853
もも	772	789	821	791	190,632
ヒレ	1,091	1,161	1,161	1,155	18,633
セット	934	1,030	1,064	1,018	714,158

◇近畿圏 総重量 531,625 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,278	1,368	1,284	37,991
うで	746	792	799	781	82,997
ロース	1,112	1,225	1,288	1,218	71,136
ばら	1,166	1,257	1,267	1,243	94,249
もも	743	765	791	766	130,188
ヒレ	1,146	1,247	1,390	1,246	8,518
セット	907	1,071	1,125	1,035	106,546

[食鳥正肉日経相場] 4月11日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	696	793	939	219
ムネ	390	437	559	220

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	722	807	1,010	3
ムネ	392	442	570	5

[農水省統計情報部食鳥市況] 4月11日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,036	639	550	600	650
安値	700	390	290	360	350
平均	797	442	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ◆業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ◆畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ◆国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ◆あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ◆知識を豊かにする

#### 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### ◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

#### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

#### 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します